

**製品名: IRF-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12737**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IRF1
別名	IRF1; Interferon regulatory factor 1; IRF-1
遺伝子 ID	3659.0
SwissProt ID	P10914
免疫原	抗血清はヒト IRF1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

**背景**

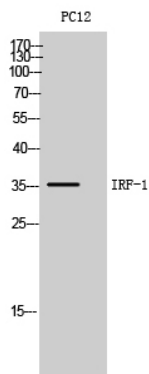
IRF1 は、インターフェロン制御転写因子 (IRF) ファミリーの一員であるインターフェロン制御因子 1 をコードしています。IRF1 はインターフェロン  $\alpha$  および  $\beta$  の転写を活性化する因子として機能し、マウスにおいてはこれらの遺伝子の二本鎖 RNA 誘導に必要であ

ることが示されています。また、IRF1はインターフェロン $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ によって誘導される遺伝子の転写活性化因子としても機能します。さらに、IRF1はアポトーシスや腫瘍抑制の制御にも関与することが示されています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：IRF1の欠失または再配列は、前白血病性骨髄異形成症候群（MDS）および急性骨髄性白血病（AML）の原因である。、機能：I型インターフェロン（IFN）およびIFN誘導性MHCクラスI遺伝子の上流調節領域（インターフェロンコンセンサス配列（ICS））に特異的に結合し、これらの遺伝子を活性化する。腫瘍抑制因子として作用する。、誘導：ウイルスおよびIFNによる。、PTM：SUMO化は転写活性を抑制し、タンパク質分解に対する抵抗性を高める。腫瘍抑制活性を不活性化する。腫瘍細胞で高レベルに発現する。主要部位はLys-275である。SUMO化はPIAS3によって促進される（類似性による）。腫瘍細胞においてSENP1によって脱SUMO化され、C末端部位のユビキチン化と競合すると考えられる。、PTM：ユビキチン化される。C末端部位のSUMO化と競合すると考えられる。、類似性：IRFファミリーに属する。、類似性：1つのトリプトファンペンタッドリピートDNA結合ドメインを含む。、

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



IRF-1ポリクローナル抗体を使用したPC12細胞のウエスタンブロット分析。二次抗体は1:20000に希釈されました。